

母体搬送後に緊急帝王切開となった産婦への対応の検討

～母体搬送時から出産後の産婦との関わりを通して～

比嘉 速望

要旨：母体搬送後の妊産婦は、慣れない環境や急な出産により心身共に負担が大きく、出産後に否定的感情を抱きやすい。そのため、搬送時から妊産婦の心理的回復過程やその過程に影響する要因を把握し、それに伴う支援を行っていくことが妊産婦の心理的負担の軽減、否定的感情の軽減にて繋がると考えられる。

キーワード：母体搬送、緊急帝王切開、心理的回復過程

【はじめに】

当院は、NICUを併設しているため他院からのハイリスク妊婦が搬送される。ハイリスク妊婦は母体側あるいは胎児側の要因などがあり、緊急の対応が求められる。急な出来事で妊婦自身不安やストレスを抱えながら搬送される。さらに母体搬送後余儀なく緊急帝王切開となる場合は、妊産婦は慣れない環境や急な出産により心身に負担が大きく、出産後も否定的感情を抱きやすいと言われている。

私自身、2年目になり母体搬送を担当することもあり、搬送後緊急帝王切開となる妊産婦と関わる機会が多くなった。だが、搬送直後は緊急の検査や処置の対応に追われ、手術へ送り出すことで精一杯になり、妊産婦の心理面での支援が思うようにできていなかった。

今回の事例の産婦はPIH（妊娠高血圧症候群）のため母体搬送後緊急帝王切開となった。上記事例で産婦の心理面の把握や育児支援を行い、出産を肯定的に捉えて育児がスムーズに行くように支援した。

I. 事例紹介

1. 一般事項

氏名：T氏 年齢：29歳 職業：主婦
家族構成：夫と二人暮らし

沖縄赤十字病院 看護部

一般既往歴：特になし

身長：145.0cm 体重：67.0kg

妊娠歴：初産 妊娠37週1日（搬送時）

入院期間：8日間

2. 妊娠経過

他病院にて妊娠初期から受診。34週頃から37週までの急激な体重増加、1週間前から足の浮腫みの増強と4日ほど前から頭痛が時々あり。特にこれまでの健診では異常の指摘なし。37週1日の妊婦健診にて収縮期血圧160mmHgあり、PIHにて母体搬送となった。搬送時、ノンストレステストにて児状態良好、血圧190/120mmHg、尿蛋白2+、血圧高値持続あり、降圧剤使用し、緊急帝王切開となる。

3. 児の出生時の状態

出生週数：37週1日

児出生体重：2316g（低出生体重児）

アプガースコア：1分値9点／5分値9点

正期産で状態良好にて新生児室に入院

II. 看護問題

- # 1 PIHによる循環機能の変調
- # 2 緊急帝王切開後の急性疼痛
- # 3 母体搬送・緊急帝王切開による母体の急激な変化に関連した不安

今回、#3に関して考察する。

#3 母体搬送・緊急帝王切開による母体の急激な変化に関連した不安

[看護目標]

- ・不安を表出でき、出産を肯定的に捉える。
- ・産後育児技術を獲得できる。
- ・児に対し愛着行動をとることができる。

[援助計画]

表1 参照

III. 看護展開

表1 参照

IV. 考察

今回T氏を受け持ち、母体搬送から緊急帝王切開後の産後まで援助を行った。

搬送時のT氏は、緊張のあまり口数が少なく、あまり感情表出ができていなかった。この時のT氏の心理面では予期せぬことへの動揺や不安がうかがえた。葛西ら¹⁾は、産婦の心理的回復過程の推移として5つの段階をあげている。①「動揺・混乱」、②「混乱の自覚」、③「搬送時の混乱の表出と不安の解消」、④「予期的・具体的不安の表出」、⑤「母親役割行動への表現」である。T氏は、搬送時において①から②の段階にあったと考えられる。多くの妊産婦は搬送後、医療環境の変化やスタッフも一変するために自らのニーズや不安等を訴えにくい状況にもあり、精神的ストレスが大きい。このことから、今回、適宜処置や検査、児の状態等を側で声かけしていった。産後の振り返りでT氏は、スタッフの声かけで安心したとの弁があり、適宜声かけすることで不安軽減に繋がっていたと考えられる。そのため、常に産婦の側に寄り添い、声かけしていくことが大切だと考えられる。③から⑤の段階は産後早期から後期にあたる考えられる。

葛西らは¹⁾搬送前の状況と搬送時の産婦の事実認識状態が現実認識困難の場合、心理的回復過程が遅れたと述べている。T氏は搬送時の状況を認識し、帝王切開を受容していた。しかし、緊急時は限られ

た時間の中で意思決定をやらなければならない、分娩に対する思いを抑圧してしまうことが多い。一旦受容しても全てを受容し、肯定的に捉えている訳ではない。緊急帝王切開となった産婦は児に対して罪悪感や術後に自分のしたことへの後悔を感じたりするなど、否定的な体験をしていることが報告されている。実際に、振り返りでT氏は妊娠期の自己の体調管理に関して自責の念を抱いていた。そのため、産後、早期からの児との関わりや再度振り返りを実施し、思いの表出や体験の意味づけを促した。T氏は振り返りの中で思いを表出したこと、また体調が回復し育児にも慣れてきたことで「自分を責める気持ちはなくなった」「(母児同室)大変だったけど一緒に過ごせて良かった。明日も頑張る」等の発言があり、本人の自責の念が軽減し、否定的感情から肯定的感情への変化がうかがえた。

心理的回復過程に影響を与える要因として、葛西ら¹⁾は上記の搬送時の状況や認識の相違、児の状態、分娩方式、産婦の背景等をあげている。葛西らがあげた要因以外にも、産後の母子の健康状態や児との関わり、振り返り、育児の修得状況も回復過程に影響しているのではないかと今回の関わりで考えられた。

今回T氏は産後スムーズに育児へ移行することができたが、搬送時の状況や認識、産婦の状態、児の状態等によっては受け入れや産後の育児状況が異なる場合もある。そのため、搬送時から妊産婦の心理的回復過程やその過程に影響する要因を把握し、それに伴う支援を行っていくことが重要であると考えられる。

搬送時の医療者との関わりでは、産婦の不安を増強させないように処置・検査等をスムーズに実施し、常に声かけを行う。緊急時の限られた時間の中では患者の不安を全て取り除くことは難しい。そのため、産後早期に搬送や分娩に関して振り返りを実施し、その時の状況を把握し、分娩を肯定的に捉えるように促すことも大切であると考えられる。

V. 結語 (まとめ)

1. 産婦の心理的回復過程を促進するために心理的

回復過程に影響を与える要因を把握し、それに伴う支援を行うことが大切である。

2. 産後早期からの母児接触や産婦との振り返り等を行うことで否定的感情を軽減させ、出産や育児を肯定的に捉えることに繋がる。
3. 医療者として、スムーズな検査・処置、患者への声かけ、産後早期の振り返り等を実施し、不安軽減や当時の状況把握に努め、分娩を肯定的に捉えられるように促すことが大切である。

VI. 引用・参考文献

- 1) 葛西佳奈他：緊急母体搬送入院直後に分娩にいたった産婦の心理過程の分析. 母性衛生 第47巻 第1号：161-169, 平成18年.
- 2) 椎谷由実他：緊急帝王切開における分娩体験の受容と自分なりの意味づけを促す看護. 母性衛生 第55巻 第4号：643-650, 平成27年.
- 3) 武田美枝他：母体搬送後緊急帝王切開となった産婦の危機対処への介入についての考察. 第35回日本看護学会論文集—母性看護—：184-186, 平成16年.

表1

III. 看護展開

#3 母体搬送・緊急帝王切開による母体の急激な変化に関連した不安

日時	本人の言動・表情・行動	実施
搬送時 37週1日	<p>O) 搬送直後、T氏は緊張した様子で口数が少ない。説明に対し、「はい、わかりました」と緊張した表情で返答。内診、エコー、胎児心拍モニター（ノンストレステスト：NST）を実施。NSTにて児状態良好。血圧190～200/90～100mmHgと高く、降圧剤使用し降圧図りながら母体の影響を考慮し、緊急帝王切開決定。医師より現在の状況と帝王切開の説明を実施し、T氏はうなずきながら納得された。途中、実母やご主人が来院。</p> <p>O) 帝王切開準備後、ORへ入室。 T氏は「よろしく願います」と笑顔で返答。手術開始後、30分後に児誕生。直後啼泣あり、状態良好にて処置終了後、T氏は児に触れ、「良かった。小さくてかわいい。柔らかいですね」と笑顔で涙を流された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介をし、これから行う検査・処置の説明を実施。緊張した様子であったため、ここまで児をお腹の中で育てたことを労いながら、児に会えることや今の気持ちを伺いながら、産後の流れを説明。また、現在児が元気であることを声かけしT氏は少し涙目ながらも笑顔で「良かった」との反応あり。 ・ご家族が来院された際には一緒にになれるよう配慮。ご主人も驚いた様子であったが納得されていた。 ・ORにてT氏の緊張や不安軽減を図るため、私が付いていることや一緒に頑張りましょうと声かけやタッチングを実施。児誕生後早期母児接触実施。
産後1・2日目	<p>O) 産後、血圧が高めにて降圧薬の点滴開始。産後2日目より、授乳室で授乳やおむつ替え等を実施。母乳分泌良好。点滴をしていたことや初めての授乳で不慣れな部分あるも自分のペースで頑張っている。</p> <p>S) 初めてで難しいけどおっぱいを吸ってくれて良かった。私の赤ちゃんだって実感が湧いた。搬送の時や手術後は不安が大きかったけど今は嬉しさが大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調を考慮し、産後1日目はスタッフで介助しながら病室で抱っこや授乳実施。夜間、授乳は休みにし、休息促す。 ・産後2日目からは授乳室へ案内し、おむつ交換や授乳の方法等をT氏のペースに合わせて説明。
産後3日目	<p>O) 降圧薬の点滴終了、内服に変更。痛みも鎮痛薬でコントロール良好。T氏は体調が徐々に良くなったことで、心身共に「楽になった」との弁があり、夜間も積極的に授乳を実施。だが、「なかなか眠れない」と話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T氏は体調の改善に伴い育児を積極的に頑張っていたが無理をしている部分があり、T氏へ今は育児と同時に自分自身の体調を整えることも大切であることを説明し、休息を促す。
産後6日目	<p>O) 母児同室実施。</p> <p>S) やっぱり大変ですね。眠ったと思ったら泣いて1時間おきに授乳していた時もあった。一緒に過ごさないとわからない。でも、赤ちゃんと部屋で触れ合えて良かった。また今日も頑張る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の家での育児がイメージできるよう母児同室を実施。実施後大変さも感じながらも児への愛着行動や母親役割行動が取れていた。

産後 8 日 目	<p>○) 降圧薬内服にて血圧安定、授乳も母乳のみで児体重増加良好にて退院となる。</p>	<p>・退院時、退院後の生活に関することや授乳のリズムを再度確認。また、T氏は降圧薬を内服しており、緊急帝王切開であったことも含め、一人で無理せず家族に家事を依頼することやしばらくは実家で過ごすことを提案。</p>
パ ー ス レ ビ ュ ー	<p>・ T氏は帝王切開になったことに関して S) 赤ちゃんが無事に生まれてくれたことがなによりも良かったし、安心した。特に分娩の方法にはこだわりはなかった。 ・ 妊娠中の体調の変化に関して S) なんて早く気付かなかっただろう。自分の体調管理ができていたらこんなことにはならなかったんじゃないかって感じていた。でも、体調も徐々に良くなって、赤ちゃんもおっぱいをよく飲んでくれるし、授乳も慣れてきたから、今は自分を責める気持ちもなくなった。</p>	<p>・ T氏の話の傾聴・受容し、辛いながら、病態生理をわかりやすく説明し、次回妊娠にもいかなるよう、妊娠による体調の変化や異常のサイン、気になることがあった場合の医療者への声かけの大切さを一緒に確認していった。</p>
搬 送 時 の 振 り 返 り	<p>・ 搬送時、医師からの説明を受けた際 S) 中毒症で帝王切開になることは知っていて、自分でなんとなく予測したので受け止められた。でもすぐやるとは思っていなかった。その時は何も考えられなかった。何よりも赤ちゃんの状態が一番心配だった。 ・ 医療者側の説明に関して S) 毎回説明をしてくれて安心した。 ・ 搬送直後の血圧測定時 S) 「血圧 200 超えている」「200 超えているはずないだろ」というやりとりが聞こえてドキドキした。</p>	<p>・ T氏の思いを傾聴。血圧の件で不安にさせてしまったことを申し訳ないと思いつつ、その時の状況を再度理解してほしいと感じ、搬送時の状況や血圧が高い場合に起こる母体への影響を再度説明実施。T氏は「そうだったんですね」とうなずく様子が見られた。</p>
助 産 師 外 来	<p>1) 産後 13 日目 ○) 母乳分泌良好で児の飲みも良好。T氏は来院時から疲労感あり、指導中も目がおよいでいる様子であった。退院後実家に帰らず、ご主人も仕事の帰りが遅く、一人で育児を実施されており、寝不足であった。また、降圧薬内服継続ではあったが 140/92mmHg と高かった。</p> <p>2) 産後 20 日目 ○) T氏の表情は1週間前より明るく、疲労の状態も改善。児の体重増加も1日 30.6g、20分の授乳で30cc哺乳出来ていた。先週の外来後、しばらく実家へ帰省しており、家事は全て実家の家族がサポートし、休息も取れた様子。しかし、実家はエアコンがなく、暑く大変だったと話された。実際に血圧は実家に帰省してから高めで推移していた (140/90mmHg 台)。</p>	<p>・ 先輩助産師と共に授乳時のポイントを再指導。T氏の疲労の状態から休息も兼ねて実家へしばらく帰り、家事は家族へ依頼するよう声かけ。児の体重確認と血圧確認のため1週間後に再度受診するよう促した。</p> <p>・ 血圧の上昇は暑さの影響もあると考えられ、T氏へエアコンのある自宅へ戻ることも提案し、タイミングは本人へ任せた。</p>
1 か 月 健 診	<p>○) 診察にて血圧やや高めのため、1ヵ月後に血圧確認にて受診予定となった。血圧以外は産褥経過良好。児の体重増加良好。育児は慣れてきたとの弁あり、表情も明るく、授乳も慣れた様子であった。夫がほぼ全ての家事を手伝ってくれ、役割分担もできていた。</p>	